

グローバル3倍3分法ファンド(1年決算型)

設定日：2018年10月4日
 収益分配：決算日毎

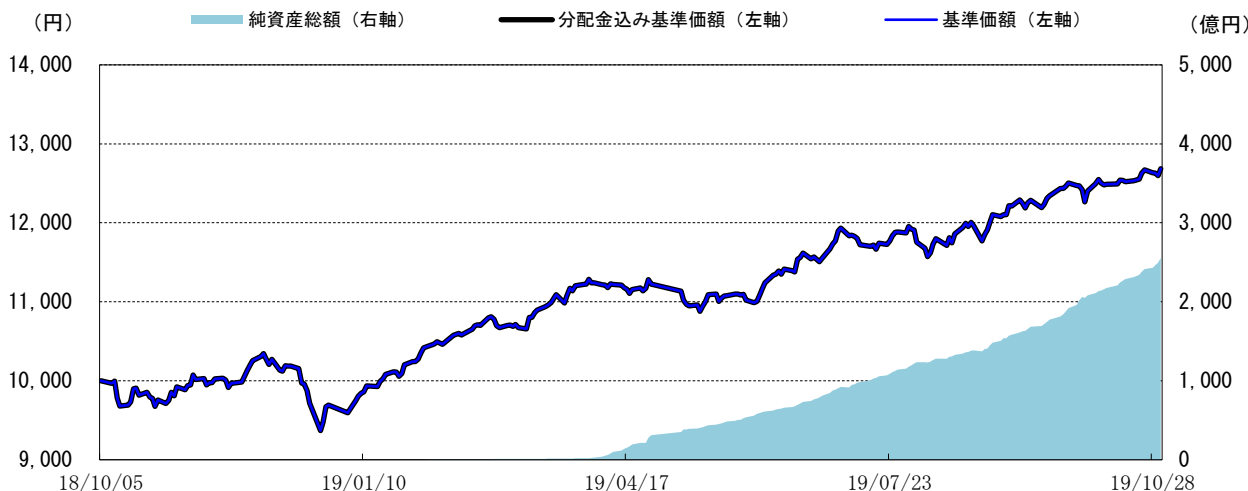
償還日：2028年9月21日
 基準価額：12,685円

決算日：原則、毎年9月21日
 純資産総額：2555.78億円

運用実績

※当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
 ※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
 ※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

<基準価額の推移グラフ>



※分配金込み基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。

<基準価額の騰落率>

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
当ファンド	1.71%	6.41%	13.02%	28.74%	-	26.85%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

<分配金実績（税引前）>

設定来合計	19・9・24				
0円	0円				

※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

<通貨別構成比>

通貨名	比率
日本円	37.7%
アメリカドル	33.1%
香港ドル	4.5%
ユーロ	4.4%
イギリスポンド	3.0%
その他	17.3%

※比率は当ファンド純資産総額比で、先物取引による建玉は含みません。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

<資産構成比>

株式	日本株式先物	20.1%	59.2%
	海外先進国株式	19.5%	
	海外新興国株式	19.5%	
不動産投信	日本リート	19.4%	38.9%
	海外先進国リート	19.5%	
債券	日本国債先物	40.1%	198.6%
	米国国債先物	39.5%	
	ドイツ国債先物	39.7%	
	イギリス国債先物	39.7%	
	豪州国債先物	39.6%	
合計		296.7%	296.7%
現金その他		22.0%	22.0%

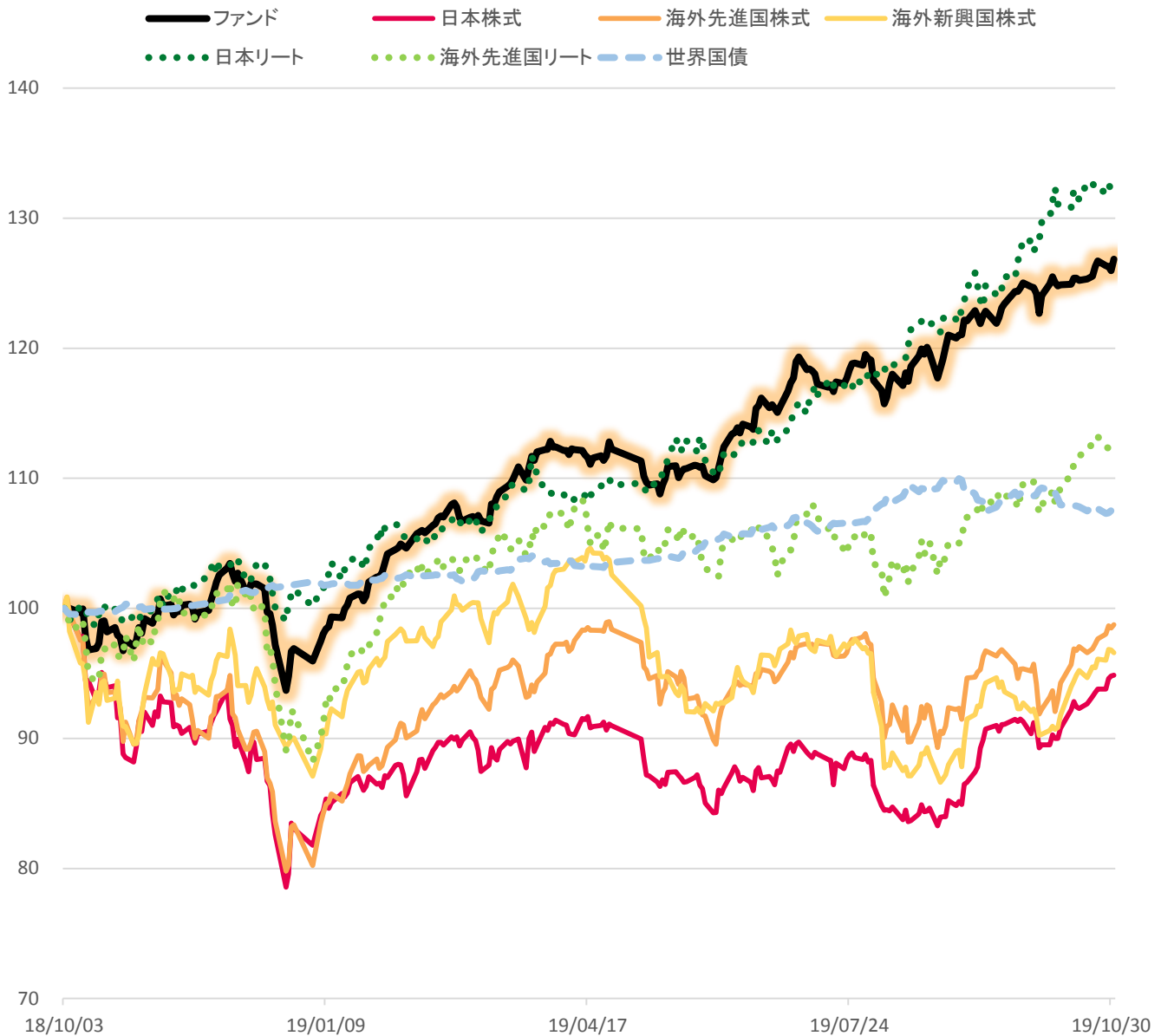
※比率は当ファンドの純資産総額比です。

※先物取引にかかる証拠金は「現金その他」に含まれます。

※当ファンドはグローバル3倍3分法ファンド（適格機関投資家向け）を通じて、主な投資対象ごとに次の資産へ投資を行います。

- 日本株式：国内の株価指数先物取引に係る権利など
- 海外先進国株式：海外株式インデックスMSCI-KOKUSAI（ヘッジなし）マザーファンド
- 海外新興国株式：海外新興国株式インデックスMSCIエマージング（ヘッジなし）マザーファンド
- 日本リート：日本リートインデックスJ-REITマザーファンド
- 海外先進国リート：海外リートインデックス（ヘッジなし）マザーファンド
- 世界国債：世界の国債先物取引に係る権利など

〈ファンドと各資産の価格推移〉
(設定日の前営業日を100として指数化)



※「ファンド」は分配金込み基準価額です。

※各資産の内容は以下の通りです。各資産の推移は、あくまでも参考情報であり、当ファンドのベンチマークではありません。

- 日本株式 : 「東証株価指数(配当込み)」
- 海外先進国株式 : 「MSCI-KOKUSAIインデックス(配当込み、円ヘッジなし・円ベース)」
- 海外新興国株式 : 「MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ヘッジなし・円ベース)」
- 日本リート : 「東証REIT指数(配当込み)」
- 海外先進国リート : 「S&P先進国REIT指数(配当込み、除く日本、ヘッジなし・円ベース)」
- 世界国債 : 「FTSE WGBI(含む日本、円ヘッジ、円ベース)」

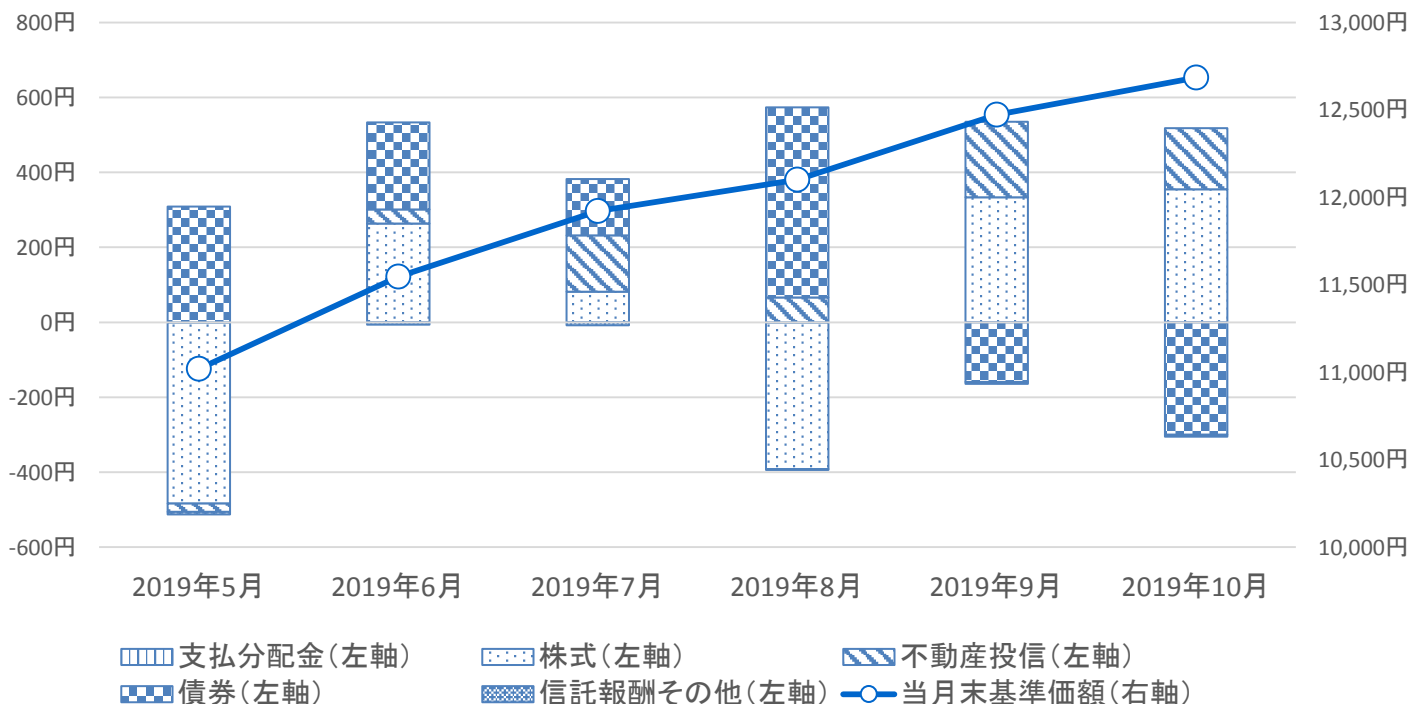
※ 東証株価指数(配当込み)、東証REIT指数(配当込み)に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
 MSCI-KOKUSAIインデックス(配当込み、円ヘッジなし・円ベース)、MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ヘッジなし・円ベース)に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。
 S&P先進国REIT指数(配当込み、除く日本、ヘッジなし・円ベース)に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はS&P社に帰属します。
 FTSE WGBI(含む日本、円ヘッジ、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関する全ての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■ 基準価額騰落の要因分解

[直近6ヵ月/月次 および設定来] ※グラフは直近6ヵ月のみ



	2019年5月	2019年6月	2019年7月	2019年8月	2019年9月	2019年10月	設定来
前月末基準価額	11,224円	11,020円	11,547円	11,921円	12,101円	12,472円	10,000円
支払分配金	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
株式	-484円	264円	82円	-392円	334円	355円	195円
日本株式先物	-150円	70円	22円	-83円	149円	124円	-26円
海外先進国株式	-133円	80円	62円	-112円	77円	99円	123円
(うち為替)	-48円	-18円	4円	-52円	32円	38円	-76円
海外新興国株式	-200円	114円	-2円	-196円	107円	132円	98円
(うち為替)	-60円	-1円	14円	-90円	44円	50円	-57円
不動産投信	-23円	38円	150円	66円	202円	163円	908円
日本リート	36円	33円	96円	85円	109円	79円	605円
海外先進国リート	-58円	5円	54円	-19円	92円	84円	304円
(うち為替)	-52円	-22円	6円	-53円	34円	37円	-71円
債券	309円	232円	150円	507円	-159円	-300円	1,656円
日本国債先物	14円	20円	-2円	43円	-10円	-34円	92円
米国国債先物	76円	65円	-22円	130円	-45円	-35円	344円
ドイツ国債先物	57円	56円	51円	114円	-52円	-90円	364円
イギリス国債先物	93円	28円	75円	108円	-27円	-72円	374円
豪州国債先物	82円	65円	52円	123円	-28円	-81円	503円
債券先物取引証拠金等の為替要因	-13円	-1円	-5円	-10円	4円	12円	-21円
信託報酬その他	-7円	-7円	-8円	-2円	-5円	-5円	-75円
合計	-204円	527円	374円	180円	371円	213円	2,685円
当月末基準価額	11,020円	11,547円	11,921円	12,101円	12,472円	12,685円	12,685円

※要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。
 ※設定来の「前月末基準価額」には設定日の基準価額を表示しています。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

市場環境 <国内株式>

10月の国内株式市場は、東証株価指数（TOPIX）が前月末比プラス4.99%、日経平均株価が同プラス5.38%と上昇しました。上旬は、米国と中国の貿易協議が進展すると期待感が株価の支援材料となったものの、米国の経済指標が市場予想を下回ったことに加えて、米国が欧州連合（EU）に対する報復関税を発動する方針を示し、投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどから、国内株式市場は下落しました。中旬から下旬にかけては、米中間の貿易協議が部分的な合意に向けて進展したことや、国内企業の決算発表が本格化するなか、米中貿易協議が進展し業績が改善する企業が増えるとの期待の高まりなどから、国内株式市場は上昇しました。

東証33業種分類では、金属製品、海運業、医薬品など32業種が上昇する一方で、繊維製品は下落しました。

市場環境 <先進国株式>

米国株式市場は、前月末と比べて上昇しました。上旬は、米国サプライマネジメント協会（ISM）が発表した9月の製造業と非製造業の景況指数がともに市場予想を下回ったことやADP全米雇用リポートが雇用の伸び悩みを示したことなどの経済指標の悪化を受けて、米国景気の減速懸念が強まったことなどから、株価は下落しました。中旬から下旬にかけては、米中間の貿易協議において、中国が農産品の購入で譲歩する一方、米国は予定していた中国製品に対する制裁関税の引き上げを延期したことや、その後いくつかの分野で合意が最終段階に近づいたとの報道があったこと、米国主要企業が市場予想を上回る好調な業績発表をしたこと、米国連邦公開市場委員会（FOMC）の声明では利下げの停止が示唆されたものの、米国連邦準備制度理事会（FRB）議長が今後の利下げの可能性を排除しなかったことなどが好感され、株価は上昇しました。

欧州株式市場は、前月末と比べて総じて上昇しました。上旬は、ドイツの5大経済研究所が国内経済の成長率予測を下方修正し、欧州景気の減速懸念が強まったことや、米国サプライマネジメント協会（ISM）が発表した9月の製造業と非製造業の景況指数がともに市場予想を下回るなど、米国の経済指標の悪化を受けて、株価は総じて下落しました。中旬から下旬にかけては、米中間の貿易協議において、中国が農産品の購入で譲歩する一方、米国は予定していた中国製品に対する制裁関税の引き上げを延期したことや、その後いくつかの分野で合意が最終段階に近づいたとの報道があったこと、英国と欧州連合（EU）が英国のEU離脱の条件で合意し、さらにEU加盟国による英国のEU離脱期限延期の承認などを受けて、英国の合意なきEU離脱が回避されるとの期待が高まったことなどを背景に、株価は総じて上昇しました。

市場環境 <新興国株式>

10月の新興国株式市場は、前月末と比べて概して上昇しました。

市場予想を下回った米国のISM製造業景況感指数等から、世界的な景気減速が懸念されたことなどが株価の重しとなったものの、米国と中国の貿易協議が正式な部分合意に向けて進展していることや、英国と欧州連合（EU）の間の離脱協定改定案合意などを受けて、英国の合意なきEU離脱が回避されるとの期待が高まったことなどを背景に、新興国の株価は概して上昇しました。米国企業の好調な業績発表等を好感して先進国の株式市場が概ね堅調な展開となったことも、株価の押し上げ要因となりました。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

市場環境 <国内債券>

10年国債利回りは、前月末比で上昇（債券価格は下落）しました。上旬は、日銀が一部の国債買い入れ額を減額する可能性を示し市場の需給悪化が懸念されたことなどが利回りの上昇要因となる一方、米国の経済指標が市場予想を下回る弱い結果、米国長期金利が低下したことなどが利回りの低下（債券価格は上昇）要因となり、10年国債利回りは一進一退の展開でした。中旬から下旬にかけては、米中間の貿易協議が部分的な合意に向けて進展し投資家のリスク回避姿勢が後退したことや、日銀は追加の金融緩和を見送るとの見方が広がったことなどから、10年国債利回りは上昇しました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、前月末比で上昇し、マイナスの金利幅を縮小させました。

その他国債の利回りは、40年物国債の利回りは前月末比で低下しましたが、これ以外の年限については上昇しました。

市場環境 <海外債券>

米国の債券利回りは、10年、5年国債は上昇（債券価格は下落）、2年国債は低下（債券価格は上昇）しました。上旬は、製造業総合景況指数などの米国経済指標が低調となり、米国連邦準備制度理事会（FRB）が米国景気の下支えに利下げを行なうとの見方が広がったことなどから、利回りは低下（債券価格は上昇）しました。中旬以降は、米國小売売上高が市場予想を下回り、個人消費の減速が懸念されたことなどが利回りの低下要因となったものの、米国大統領や政府高官による米中通商交渉の部分的合意への前向きな発言がなされたことや、英国の欧州連合（EU）離脱を巡り、離脱協定の修正案や離脱期限の延期について英国とEUが合意に至り、市場のリスク回避姿勢が後退したことなどを背景に、利回りは上昇しました。

10月の欧州債券市場では、10年国債利回りは前月末比で総じて上昇（債券価格は下落）しました。前半は、米国が欧州連合（EU）への報復関税の発動を表明し、米国と欧州間の貿易摩擦に対する懸念が高まったことなどが、利回りの低下（債券価格は上昇）要因となったものの、英国とEUによる新たな英国のEU離脱条件を巡る交渉について合意の可能性が報じられ、合意なき離脱への警戒感が和らいだことなどを背景に、利回りは総じて上昇しました。後半は、英国とEUが離脱協定の修正案や離脱期限の延期について合意に至ったことや、米中間の通商交渉で特定分野の合意に向けて協議が進展したこと、市場予想を上回るドイツの企業景況感指数の発表などを受けて、利回りは総じて上昇しました。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

市場環境 <国内REIT>

10月のREIT市場は、前月末比で上昇しました。米中間の貿易協議が部分的な合意に向けて進展し投資家のリスク回避姿勢が後退したことなどをを受けて国内長期金利が上昇し、REITの利回りに対する相対的な魅力度が低下したことはREIT価格の重しとなったものの、米中貿易協議の進展などを背景とした国内株式市場の上昇や、都心部オフィスの空室率の低下や平均賃料の上昇を示す経済指標が発表され不動産市況の好調が示唆されたことなどが支援材料となり、REIT市場は上昇しました。

市場環境 <海外REIT>

10月のS&P先進国REIT指数（除く日本）は、前月末と比べて上昇しました。

米国REIT指数は、前月末と比べて上昇しました。上旬は、製造業総合景況指数などの米国経済指標が市場予想を下回り、米国景気の減速懸念が強まったことなどを背景とした米国株式市場の下落などが影響し、同指数は下落しました。中旬から下旬にかけては、長期金利が上昇したことなどが同指数の重しとなったものの、物流REIT大手などの堅調な決算内容が好感されたことや、主要企業の市場予想を上回る好調な業績発表などをを受けて米国株式市場が上昇したことなどが支援材料となり、同指数は上昇しました。

欧州REIT指数は、前月末と比べて上昇しました。上旬は、ドイツ主要研究所による合同発表でドイツの経済成長予測が下方修正されたことなどを受けた欧州株式市場の下落などが悪材料となり、同指数は下落しました。中旬から下旬にかけては、英国の欧州連合（EU）離脱を巡り、離脱協定の修正案や離脱期限延期について英国とEUが合意に至ったことなどを背景に欧州株式市場が上昇したことなどが追い風となり、同指数は上昇しました。

オーストラリアREIT指数は、前月末と比べて上昇しました。上旬は、オーストラリア準備銀行（RBA）が利下げを決定するとともに、必要に応じて追加の金融緩和政策を講じる方針を示したことなどが好感され、同指数は上昇しました。中旬から下旬にかけては、米国と中国との間の通商交渉で特定分野の合意に向けて協議が進展したことなどを背景としたオーストラリア株式市場の上昇などが支援材料となり、同指数は上昇しました。

運用概況

当ファンドは、世界の株式やREITに加えて、日本株式および各国国債への投資には先物取引などを活用することで、純資産総額の3倍相当額の投資を行ないました。投資対象資産は世界の株式、REIT、債券の3資産とし、幅広く分散投資を行ないました。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

1

実質的に、世界の株式、REITおよび債券などに分散投資を行ない、収益の獲得をめざします。

■主要投資信託証券(グローバル3倍3分法ファンド(適格機関投資家向け))を通じて、主として、世界(日本を含む)の資産(株式、REIT、債券)に投資を行ないます。

2

世界の株式やREITに加えて、株価指数先物取引や国債先物取引などを活用することで、信託財産の純資産総額の3倍相当額の投資を行ないます。

■主要投資信託証券は、各資産に投資を行なうマザーファンドの受益証券のほか、株価指数先物および国債先物の取引に係る権利などに投資を行ないます。

■世界の株式やREITなどの現物の組入総額と株価指数先物取引や国債先物取引の買建総額の組入合計額が、信託財産の純資産総額の3倍相当額となるように投資を行ないます。

3

年1回、決算を行ないます。

■毎年9月21日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とします。

※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行なわない場合もあります。

世界の株式、REIT、債券の3つの資産に対し、純資産総額の3倍相当額の投資を行なう運用手法を「3倍3分法」としています。

基準価額変動リスクの大きいファンドですので、ご投資の際には慎重にご判断ください。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込みメモ

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	2028年9月21日まで（2018年10月4日設定）
決算日	毎年9月21日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日が下記のいずれかに該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・英国証券取引所の休業日 ・ニューヨークの銀行休業日 ・ロンドンの銀行休業日
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料 購入時の基準価額に対し3.3%（税抜3%）以内
※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

換金手数料 ありません。

信託財産留保額 ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく（ファンドから支払われる）費用>

運用管理費用（信託報酬） 純資産総額に対し年率0.484%（税抜0.44%）程度が実質的な信託報酬となります。

信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率0.396%（税抜0.36%）、投資対象とする投資信託証券の組入れに係る信託報酬率が年率0.088%（税抜0.08%）程度となります。

その他の費用・手数料

受益者が実質的に負担する信託報酬率（年率）は、投資対象とする投資信託証券の組入比率や当該投資信託証券の変更などにより変動します。
目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用（業務委託する場合の委託費用を含みます。）、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。

組入る有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。
※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社 日興アセットマネジメント株式会社
受託会社 野村信託銀行株式会社
販売会社 販売会社については下記にお問い合わせください。

日興アセットマネジメント株式会社

〔ホームページ〕 www.nikkoam.com/

〔コールセンター〕 0120-25-1404（午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。）

■お申込みに際しての留意事項**○リスク情報**

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様には帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式、不動産投信、株価指数先物取引および国債先物取引にかかる権利を実質的な投資対象としますので、株式、不動産投信、株価指数先物取引および国債先物取引にかかる権利の価格の下落や、株式および不動産投信の発行体の財務状況や業績の悪化、不動産の市況の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

- ・株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。
- ・新興国の株式は、先進国の株式に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。
- ・不動産投信は、不動産や不動産証券化商品に投資して得られる収入や売却益などを収益源としており、不動産を取り巻く環境や規制、賃料水準、稼働率、不動産市況や長短の金利動向、マクロ経済の変化など様々な要因により価格が変動します。また、不動産の老朽化や立地条件の変化、火災、自然災害などに伴う不動産の滅失・毀損などにより、その価格に影響を受ける可能性もあります。不動産投信の財務状況、業績や市況環境が悪化する場合、不動産投信の分配金や価格は下がり、ファンドに損失が生じるリスクがあります。
- ・公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。
- ・株価指数先物取引および国債先物取引にかかる権利の価格は、投資対象となる原資産の値動きや先物市場の需給および金利の動きなどの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、当該先物取引にかかる権利の値動きに予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

流動性リスク

- ・市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- ・新興国の株式は、先進国の株式に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

信用リスク

- ・投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト（債務不履行）や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- ・不動産投信が支払不能や債務超過の状態になった場合、またはそうなることが予想される場合、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。
- ・公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。

為替変動リスク

- ・外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- ・一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

カントリー・リスク

- ・投資対象国における非常事態など（金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など）を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- ・一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

デリバティブリスク

- ・金融契約に基づくデリバティブとよばれる金融派生商品を用いることがあり、その価値は基礎となる原資産価値などに依存し、またそれらによって変動します。デリバティブの価値は、種類によっては、基礎となる原資産の価値以上に変動することがあります。

レバレッジリスク

- ・株価指数先物取引および国債先物取引などを積極的に用いてレバレッジ取引を行いません。したがって、株式や債券の影響を大きく受けません。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

○その他の留意事項

- ・当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は 日興アセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
 加入協会：一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社足利銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第43号	○		○	
株式会社イオン銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第633号	○			
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第15号	○		○	
株式会社岩手銀行	登録金融機関 東北財務局長（登金）第3号	○			
エース証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第6号	○			
SMB C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号	○	○		○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○		○	○
株式会社愛媛銀行	登録金融機関 四国財務局長（登金）第6号	○			
FFG証券株式会社	金融商品取引業者 福岡財務支局長（金商）第5号	○			
株式会社大分銀行	登録金融機関 九州財務局長（登金）第1号	○			
株式会社大垣共立銀行	登録金融機関 東海財務局長（登金）第3号	○		○	
OKB証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第191号	○			
岡三オンライン証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第52号	○	○		
株式会社沖縄銀行	登録金融機関 沖縄総合事務局長（登金）第1号	○			
株式会社香川銀行	登録金融機関 四国財務局長（登金）第7号	○			
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	○		○	
株式会社紀陽銀行	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第8号	○			
株式会社佐賀共栄銀行	登録金融機関 福岡財務支局長（登金）第10号	○			
株式会社佐賀銀行	登録金融機関 福岡財務支局長（登金）第1号	○		○	
株式会社滋賀銀行	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第11号	○		○	
株式会社七十七銀行	登録金融機関 東北財務局長（登金）第5号	○		○	
七十七証券株式会社	金融商品取引業者 東北財務局長（金商）第37号	○			
株式会社ジャパンネット銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第624号	○		○	
株式会社十六銀行	登録金融機関 東海財務局長（登金）第7号	○		○	
株式会社証券ジャパン	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第170号	○			
株式会社荘内銀行	登録金融機関 東北財務局長（登金）第6号	○			
株式会社常陽銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第45号	○		○	
第四北越証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第128号	○			
株式会社但馬銀行	登録金融機関 近畿財務局長（登金）第14号	○			
株式会社千葉銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第39号	○		○	
ちびぎん証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第114号	○			
株式会社千葉興業銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第40号	○			
株式会社中京銀行	登録金融機関 東海財務局長（登金）第17号	○			
株式会社中国銀行	登録金融機関 中国財務局長（登金）第2号	○		○	
株式会社トマト銀行	登録金融機関 中国財務局長（登金）第11号	○			
株式会社富山銀行	登録金融機関 北陸財務局長（登金）第1号	○			
株式会社長崎銀行	登録金融機関 福岡財務支局長（登金）第11号	○			
株式会社西日本シティ銀行	登録金融機関 福岡財務支局長（登金）第6号	○		○	
八十二証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第21号	○	○		
浜銀T T証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第1977号	○			
PWM日本証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第50号	○			○
株式会社百五銀行	登録金融機関 東海財務局長（登金）第10号	○		○	
百五証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第134号	○			
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第20号	○			
株式会社広島銀行	登録金融機関 中国財務局長（登金）第5号	○		○	
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第152号	○			
株式会社北都銀行	登録金融機関 東北財務局長（登金）第10号	○			
ほくほくT T証券株式会社	金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第24号	○			
株式会社北洋銀行	登録金融機関 北海道財務局長（登金）第3号	○		○	
株式会社北洋銀行 (委託金融商品取引業者 北洋証券株式会社)	登録金融機関 北海道財務局長（登金）第3号	○		○	
北洋証券株式会社	金融商品取引業者 北海道財務局長（金商）第1号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	
丸八証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第20号	○			
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長（登金）第649号	○	○	○	
水戸証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第181号	○	○		
株式会社宮崎銀行	登録金融機関 九州財務局長（登金）第5号	○			
株式会社宮崎太陽銀行	登録金融機関 九州財務局長（登金）第10号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。